

2020 - 2021 会長 吉田克人 幹事 加藤宏治

Vol.18 1834 2021.3.17

吉田会長挨拶



会長挨拶がおこなわれました。

※別紙幹事報告書

40周年記念特別例会について



◆長崎寛文実行委員長より当日の部会別役割分担
について説明がありました。◆

4月14日当日に向けましてご協力をよろしくお願ひいたします。

その他報告

■小池源一会員から、亡父の葬儀会葬のお礼のご挨拶がありました。

■2021年-2022年度の2600地区役員の成田ガバナーからの7つの委嘱状が吉田会長から桑澤一郎会員に授与されました。



■次期役員を代表して、北原享次期会長からご挨拶がありました。



卓話



国際奉仕委員長の北原重信委員長から、講師紹介。

ニコニコBOX

人数
29人
金額
50,000円

- ◎吉田 克人会長 太郎君、本日はよろしくお願ひします。
- ◎小池 源一会員 父の葬儀の際は、大勢の方のご会葬を頂き、ありがとうございました。
- ◎小澤 ゆかり会員 昨日、また歳をとってしまいました。沢山のお客さん、仲間にお祝いしてもらい、少々飲みすぎ。ぼちぼち健康に気をつけたいです。いくつになってもお祝いをしてもらえることはうれしいです。
- ◎北原 重信会員 桑澤太郎さん、お久しぶりです。卓話楽しみです。
- ◎福田 浩二会員 今週土曜日にゴルフ場がオープンします。

出席報告

会員数 55名
出席 44名
出席率 80%

卓話

講師 元長期交換留学生 桑澤 太郎 様(桑澤 一郎会員 ご長男)

2016年 ローター青少年交換留学生としてインドへ1カ月の短期交換派遣
2017年 ローター青少年交換留学生としてフランスへ1年間の長期交換派遣
2020年 山梨学院高等学校を卒業
同年 「日本写真芸術専門学校」(東京都渋谷区)に入学、この春に2年生



今日は僕のフランスでの経験と、それがどう今に活かしているか、そして私が今何をしているのかを皆さんにお話しさせていただきます。

1. フランスでの経験について振り返って

私は、フランスの北西部のノルマンディー地方にあるシェルブールという街に1年間滞在し、滞在期間中に3つのホストファミリーにお世話になりました。高校では、平日は学校で授業をうけ、週末になると家族でサーフィンや乗馬、散歩などをして過ごしました。バカンスの時期には、アルプスでスキーをしたり、パリやリヨンといったフランスの著名な都市を数多く巡りました。また、同じロータリー交換学生として世界中から集まった留学生との交流をすることができました。この交流は、かけがえのないもので、各国の文化や、語学の話はもちろん、時には政治について議論を交わすなど、素晴らしい繋がりを感しました。もちろん楽しいだけではなく、語学の面・文化や価値観の違いから苦労することも多々ありましたが、半年を過ぎるとだいぶ順応できるようになりました。



2. 留学がどのように役立っているか

まず、1つはフランス語が喋れるようになったことです。これによって単に人と話せるようになっただけでなく自分の活動範囲が、大きく広がりました。留学中にファミリーとの関係を深めるのはもちろん、出かけた先で出会った人々や、自分の住む地域以外の人とも、交流することができました。また、言語形態が似ている英語の上達にもつながり、日本に帰ってきてからも滞在している留学生の相談に乗ったり、これから留学を考えている子たちにアドバイスをすることができました。

2つ目は、私の興味の幅が広がったことです。留学中は一人の時間が多く、環境も異なるため、今まであまり観なかったフランス映画を観たり、本を読んだり、現地での生活で話題になる政治、社会問題、料理、芸術、音楽など、自分が今までで知らなかった物へ関心を持たせてくれました。また、周りの人からの質問も私を成長させてくれました。日本という、遠い国から来た留学生には、多少皆興味がありますので、私は質問を受けることが毎日のようにありました。家族や友達の事なら、特に問題なく答えられるのですが、日本の文化、食生活、観光の事について聞かれると、知っているようでも、なかなか答えにくいものでした。

高校の物理の授業で、「福島原子力発電所の事故について」のプレゼンを依頼されたり、古典の授業では、「俳句について」のプレゼンなど、急な依頼も少なくありませんでした。それまで自分の目を海外にばかり向けていた私にとってかなり辛い事でした。海外に目を向けることはとても良いことですが、自分が海外にいるときに必要とされるのは、むしろそういった日本での文化、習慣、制度、また歴史といったものへの関心や知識でした。そのため、以前よりも日本という国に対する興味も沸きましたし、留学先のことと同じくらい、自分の母国に対する知識を持つことが、大切だと感じました。こうして、以前よりも物事に対する興味や関心を強く持つようになり、写真においても新たな表現や技術を学ぶ姿勢作りにも役立っています。

また、私個人に関する質問も多く、フランス語を学んで何をしたいのか、何を勉強したいのか、将来は何をやりたいたのか、など頻りに聞かれました。今まで私はそういった自分自身のことについて考える機会はありませんでしたので自分はなんなのかと考える機会が増えました。

3つ目は、留学先での新しい出会いです。高校ではフランス語を母語としない人たち向けの授業があり、パキスタンやアルバニアから来た学生や中東の紛争を逃れてきたシリア、イラクの子達とフランス語を共に学びました。彼らと勉強していく中で彼らの国の食文化、宗教、若者の間で流行りのカルチャーなど、日本ではなかなか知ることができなかったことを教えてもらいました。そのため、以前よりも歴史や、社会問題などについて自分で調べ、学ぼうとする機会が増えました。

ROTARY CLUB OF CHINO WEEKLY

4つ目は、芸術への理解が深まったことです。これは今僕が写真を目指す1つのきっかけにもなったものです。フランスの美食、ファッション、芸術、個性的なライフスタイルなど素晴らしいものですが、特筆すべき点はこの国の文化への意識の高さです。フランスにはたくさんの美術館があります。フランスは、人口約6千万人と日本の約半分ですが、日本には450の美術館が存在するのに対し、フランスには1200もの美術館があります。その上、ルーブル美術館やオルセー美術館など多くの美術館では留学生も含め18歳以下は無料で利用できます。また、EU圏内の移住者であれば25歳以下は無料です。他にも様々な割引があり、日本では学割はあっても、ここまでの制度はありません。そのため僕自身もフランス滞在中は美術館に何度も足を運びました。フランスは文化大国であると同時に美術館大国でもあり、パリだけでなく地方にも多く存在します。私は絵は書けませんが多くの名画と呼ばれるもの、また今日の現代アートを観賞したことによって芸術に触れることに喜びを感じるようになりました。今でも美術館や展覧会に足を運び自分の創作活動に役立てています。

5つ目は、写真に対する興味です。これもこの留学で得たものです。もともと写真を撮るのは好きでした。小さなデジタルカメラと使い捨てのフィルムカメラ、そして携帯のカメラで日々の記録を残していました。1番目のファミリーのホストマザーはカメラが好きで、大きい1眼レフカメラでいつも写真を撮っていました。それを見ていた私は帰国後すぐに父のカメラを借りて写真を撮り始めました。初めはカメラの仕組みはおろか、設定の仕方も分からず撮っても真っ白あるいは真っ黒な写真ばかりでした。その後、独学で勉強し、高校の写真同好会に入部し写真を撮っていました。それでもこの頃はずっと続けようとは思っていませんでした。きっかけは学校説明会で、原宿でブラブラと好きな古着屋を見て回っていたときに、写真学校の説明会の看板を見つけました。写真の専門学校があること自体知らなかったのですが、無理をお願いして途中から説明会に参加して、先輩や学校の先生の話聞き、秋にも説明会に足を運びました。

3. 今何をしているか

一昨年11月頃、父に今の学校への進学を提案し、晴れて昨年4月に入学をしました。しかし、コロナによる緊急事態宣言によってオンライン授業が続き、対面での授業が開始されたのは7月でした。クラスメイトは11人で、出身、経歴、撮る写真のスタイルもバラバラですが、それぞれが写真という文化を通して日々切磋琢磨しています。専門学校のいいところは同じ夢に進む仲間がたくさんいることです。全員が単にカメラマンを目指すわけではなく、著名人の撮影や取材をメインにするカメラマンを目指す人もいれば、自分の世界観、テーマを持って本を出版する写真家を目指す人もいます。他にもカメラも持って取材を行うフォトジャーナリストを目指す人やモデルのレタッチといった画像処理を専門にする人もいます。

僕は入学時、単にクライアントの要望に応えられるようなカメラマンになりたいと思っていました。しかし、同じ分野の中で千差万別の活動をしている仲間を見て、再び自分がどの方向性に向かうのがいいのかをもう一度考えています。

学校の授業はというと、出されたテーマに沿って写真を撮りプリントして提出する授業が多いです。そして全員で各自の写真を考察、コメントします。先生は、この写真の露出、構図、場所、時間帯のそれぞれのいいところ、改善した方がいいところ、さらにはこの写真から連想できる新たなテーマなどを提示します。そういった授業により、多角的に写真を見つめられるようになりました。

また、巨匠の写真家や若手写真家などが頻りに学校で講演を行うので、現場の第一線で活躍する方々とお話することができます。その他にもスタジオ、レタッチ、フィルムの現像、プレゼン術、さらには社会学や英会話などの授業もあります。僕はもともと勉強があまり得意ではなかったのですが、写真をメインにしながら物事を学べるのでとても充実しています。現在ではかなりアナログと言われるフィルム写真の現像も、薬品の扱い方はもちろん、サイアノタイプと呼ばれる古典的な技法など写真表現以外の技術を学ぶことができます。実際これらが全て役に立つかどうかと言われれば分かりませんが、これらがいつか役に立つ日が来ると私は信じています。

ROTARY CLUB OF CHINO WEEKLY

スティーブ・ジョブズが2005年にハーバード大学で点と点を結ぶ話をしたのは有名です。彼は大学の退学を決めて必須の授業を受ける必要がなくなったので、自分の興味の赴くままカリグラフの講義を学ぼうと思いました。当時は、これがいずれ何かの役に立つとは考えもしなかったジョブズですが、10年後、彼が最初のマッキントッシュを設計していたとき、カリグラフの知識が役に立ちました。そして、その知識をすべて、マックに注ぎ込みました。そして美しいフォントを持つ最初のコンピューターが誕生しました

彼はスピーチでこう言いました。

「You can't connect the dots looking forward; you can only connect them looking backwards. So you have to trust that the dots will somehow connect in your future.」

(未来を見て点を結ぶことはできない。過去を振り返って点を結ぶだけだ。だから、いつかどうにかして点は結ばれると信じなければならない。)

今、僕の周りにはどのように役に立つかわからない分野の授業がたくさんあります。将来もカメラマンになりたいという漠然な目標しかありません。しかし、今はできるだけ、合う合わないなど考えずいろんなことを吸収することに努めています。本を読むのも映画を見るのも簿記の勉強も、いつかなんらかの形で実を結ぶと信じてこれからも勉強していきます。

また、今は念願だったアパレルのアルバイトをしています。上京した時から求人サイトなどで募集をチェックしていたのですが、なかなか見つからずあきらめかけていました。そんな時学校の先輩が知り合いのアパレルブランドの商品撮影をするから手伝ってほしいと声をかけられました。撮影が一通り終わるとその場にいたブランドのデザイナーの方に話しかけてもらいました。「うちの服についてどう思う」と意見を求められ、もともと服が好きだった僕は少しづつこいぐらい話をしてしまいました。するとその方からうちで働いてみないかと提案され、特にバイトもしていなかった僕は快く承諾しました。そうして今のバイトにつくことができました。普段は掃除や接客など日々の業務ですが、新作が出ればその服をモデルに着てもらい宣伝用の写真を撮影することもあります。

留学の経験は間違いなく僕に多大な影響を与えてくれました。そして今はわからなくてもこれから先、その経験がまた生きてくると信じています。3年次には、半年間かけてアジアの8カ国をめぐる研修に参加します。そのためにも今は日々の勉強と体力づくりを頑張っています。自分がやりたいことを見つけられたのは家族、友人、そして茅野ロータリークラブの皆さまの支えあってのおかげです。いつか僕がしていることで皆さんに恩返しができるいいなと思っています。

本日はご清聴ありがとうございました。



ご清聴ありがとうございました